

革命の旗

共産主義者同盟(革命の旗) 中央機関紙

第8号 1980.2.5 (毎月5日、20日発行) 定価100円

発行人 北沢晋 発行所 赤流社 東京都世田谷区千歳 郵便局・私書箱4号 振替口座 東京7-86947

「革命の旗」定期購読 年間送料共2500円(開封) 3000円(密封)

ソ社帝のアフガニスタン侵略糾弾！リムパック粉碎！ 覇権争奪に抗し、自国帝国主義打倒の戦列を



アフガニスタンにだれ込むソ社帝・機械化師団

昨年十二月七日、首都カブールに空輸されたソ連空挺部隊が、突如アミン革命評議会議長のいる宮殿、首相官邸を包囲し、ソ社帝の完全な道具カブール政権の軍事クーデターを遂行した。そして、アフガニスタン全土をソ連十万人の軍隊が重圧し、アフガニスタン人民の主権と独立をじゅうりんとしている。我々はソ連のこの武力侵略を厳しく糾弾し、社会帝国主義としての本質、帝国主義的拡張・併合のやり口を暴露し、七八年のザイル・シヤバ州へのチョンベカイライ軍の侵攻・ベトナムのカンボジア侵略・併合の後押しに続く一段のエスカレートした帝国主義戦争の促進を暴かねばならない。と同時に、米帝・西側帝国主義の軍事的対抗と帝国主義戦争の激化、世界大戦の危機の増大を明らかにし、この一角を担う日帝の帝国主義戦争準備を暴き出し、革命的祖國敗北主義の下に、リムパックや一連の反ソ愛国キャンペーンとの闘争を組織しなければならない。

ソ社帝の世界支配の野望 新ブレ ジネフドクトリンを暴露せよ！

ソ社帝は、このアフガニスタンに侵襲している「米ホワイトハウス補佐官」の軍事攻撃について、十二月三日のプラウダ紙上で、「連部隊は、アフガニスタン政府からの再三の要請にこたえて派遣された。ソ連はアフガニスタンを反ソの橋頭堡にかえようとする帝国主義・反動勢力の企てを許すつもりはない」と強弁し、侵略を正当化しようとしている。そしてその論拠に、七八年十二月締結のソ連・アフガニスタン友好隣接条約をあげている。しかし、この主張がまやかしてあり、彼ら一流の侵略・併合のための常套手段であることは明白である。すでに軍事攻撃の前々から、「七八年チェコ事件の直前とそっくりの動きをソ連軍隊がとつ

てい」米ホワイトハウス補佐官と云われ、十二月六日までは五千の空挺部隊を中心に一万人の軍隊をアフガニスタン国内、とくにカブール周辺に配置したと言われている。更には軍事クーデターに成功と共に、大規模な侵略行動のため、国境付近に五個師団・約五万の機械化部隊を集結させていたと米軍事情報筋は語っている。また同筋は、「チェコ侵略の際にも活躍したソ社帝のハプロフスキ一軍事調査団約五〇〇人が、昨八月以降二カ月にわたってソ連・アフガニスタン関係、とくに二月革命以降のアフガニスタン国内の治安・政治・社会情勢全般を調査し、帰国した直後の行動であると

の包圍網形成の一步であることによつて、帝国主義戦争の新たな局面を開くものである。事実、米帝・西側帝国主義は六〇年代・七〇年代に、アジアとアフリカで、またラテンアメリカでも、民族民主革命の前進と第三世界諸国の反帝反侵略権闘争によつて帝国主義の矛盾を深め、世界支配を弱め退後を強制され続けてきた。その中で、七四年の石油攻勢(資源確保)以降、OPECが平等な国際的経済秩序の確立を求め、原油値上げと減産を武器に民族自決を強めていることは帝国主義の命脈を揺がしている。とりわけイラン二月革命は中東地域における反帝・反植・反西歐文明を掲げたイスラム革命勢力の高

ソ米の世界的争闘激化と、第三世界人民の反ソ反米反覇権国際闘争の昂揚

これに対してカターは、イラン人民の正当な諸要求にもとづく米大使館占拠への反革命的介入を策しつ、それ以上に強い対ソ非難を開始した。十二月八日には、SALT II 上院審議の棚上げ、パキスタンへの武器輸出凍結の解除、西欧諸国との対ソ報復措置討議を決定し、今年一月四日には英・仏・西独・伊・加との「穀物輸出大削減」をはじめとする六項目の制裁措置を発表した。更に一月五日には中東へのブラウン国防長官の派遣とその帰路における日帝との討議に

日帝の帝国主義戦争準備に、革命的祖國敗北主義を打ち固めよ！

今、日本人民の多くが、このソレジネフとの親密なとみに深め出した中で、この今の事態に苦慮し「反対」なる宮本声明を発しながら「赤旗」紙上においては報道ささげし控え、全くの無見をさらけ出した。第四インターは、ソ社帝のアフガニスタン侵略を「アフガニスタン革命の防衛と勝利」というテーマでもって公然と支持し、ソ社帝の覇権主義を美化し、そうすることによって、米帝・日帝の対ソ社帝の親密な関係を、第三世界への侵略革命を暴露し闘争する立場も掘り崩し、客観的にはそれを容認する方向へ人民を追いやる。ソ社帝の侵略による政權の交替の期待、これが彼らから導き出される結論である。この裏返しに、日本人民の対ソ非難の昂

昇れている。ソ連の国内経済はここ数年、鉱工業生産指数が減少の一途をたどり、国内資源開発が遅滞し、農業生産もまた低下している。その世界争闘に巻き込み、かつての「中東の三月地帯」と呼ばれた西側帝国主義に属する原油タンカーの航路となつてはアラビア湾・インド洋を軍事的に制圧する位置にある。アフガニスタンはイラン・パキスタンと接し、陸上からインド洋へと南進する戦略上の要衝に位置している。今回の軍事的併合は、ソ社帝にとつて、中東産油地帯を射星に入れると同時に、インド洋地域での軍事的優位を確保する戦略的野望の具体的遂行に他ならない。

狭山再審勝利への攻撃的 第一歩

問われる労働者階級の闘いの進路と内実

「部落解放運動の前進と勝利の展望を切り拓くために、なんと狭山再審闘争に勝利しなけれ...

盟からの挨拶を受け、統一集会へ移った。各界からのアピール、石川氏の獄中アピール、そして「本集会は、狭山の勝利を勝ち取る攻撃的の第一歩」という宣言文を採...

部落解放と労働者の解放

労働者(東京)

「二八狭山闘争に参加して、私はこれだけのいいのか?」労働運動はいかにして部落解放運動に...

参加、連合政権、右翼的「労働戦線」により取りつくろおうとしている。だが、この間のあいつが差別事件でも明らかにならない、この新たな階級協定の攻撃は、労働者への差別分断、職場の中の差別の強化を重要な武器として実行...

現場から

子ども会先頭に入場する東京都連

「二八狭山闘争に参加して、私はこれだけのいいのか?」労働運動はいかにして部落解放運動に...



子ども会先頭に入場する東京都連

労働戦線の右翼的再編と対決する 第四回全国労働者討論集会へ

大阪

二月十日(日)午後六時、九時 会場 部落解放センター講堂及び会議室

集会要綱
日時 一九八〇年二月十日(日)午後六時、九時、十一日午後四時
会場 部落解放センター(大阪・国鉄環線「芦原橋」駅下車徒歩5分)
規模 一千人(受付「午後十一時」)

沖電 不当逮捕を粉砕し、闘いを防衛せよ!
二月五日、抗議大集会へ!
午後六時 武蔵野公会堂



読者の通信

ほんの短い間で、また子連れという事で充分なこともできず、はがゆい思いをさし...

社会主義と労働運動

私たちは自らのささやかな試みの中で、一つの現実におぼれた。部落解放運動と労働運動との分離...

路線の批判が

十中総決議の一つの特質をなす「統一戦線促進労働組合懇談会」を中心とする新ナショナルセンター...

「左翼日和見主義・分裂主義」(フレンドシップ)「セクト主義と社民主義打撃論」(労働情報)等々である。(なお、立志社のごとく反ソ親ソか最大の基準にして批判は問題外である...

日本共産党10中総の反階級性を批判する
家独占資本主義はいささかも変えるものではなく、この生産の社会化と生産手段の私的所有との矛盾を極度に押し上げ...

彼ら日共は、すでに七〇年代階級闘争の中で実地に試され、歴史の破産を宣告された「民主連合政府」「経済民主主義」と「人民の議会主義」なる路線に...

自主的平和統一の歴史的潮流と南半部の民主革命の嵐はおしとどめられない(下)

【前回(本紙四、五号)では、現在の激動する朝鮮をめぐる情勢について、主に国際的連関の中で米帝の朝鮮政策に焦点を置いて明らかにした。今回は、韓国経済の構造的矛盾の爆発と民族民主闘争の歴史的發展、及び共和国の内外路線と統一政策を明らかにし、日本プロレタリア階級の国際主義を貫く連帯闘争任務を浮き彫りにしていくための出発点としたい。今日、民族解放闘争が七十年代に「新植民地的工業化」をおし進めた諸国で新たに激しく燃え上りつつあり、また現代修正主義の「社会主義大衆・国際分業」との闘争がますます重大なものとなっている。朝鮮人民の闘いはその最前線に立っており、この炎は日帝の勢力圏たるASEAN諸国をおおひ始めていくことをますます強固しておきたい。なお在日朝鮮人民に対する抑圧・差別・同化攻撃と闘い、在日朝鮮人民の民族的民主的権利のための闘い、在日朝鮮労働者の闘いと連帯を築きあげていく闘いは、日本のプロレタリア階級と人民にとって特別に重要な課題であるが、この課題については別に機会をあらためて提起していきたい。】

投資の下に、日本資本主義の海外延伸部(金融・原材料・販売市場等)の一切を日帝に掌握された下請加工貿易工業として始まり、日帝の「経済的属領化」と一体に、一部買弁資本の育成、肥大化として進行し、それは早くも七三年石油ショックと世界的過剰生産恐慌の波を受けて、深刻な危機に見舞われ、その後「維新体制」下で強行的に日本独占資本の一部買弁資本のゆ着による重化学工業化と、経済の軍事化へと移行していったのである。この過程は朝鮮半島の諸矛盾を急速に激化させ、今や、この「高度成長」そのものの根本的破綻を露呈し、深い、深刻な危機を噴出させるに至っている。

「韓国的高度成長」として宣伝されたその実態は、次のような特徴を示している。①輸出第一・外資依存による工業化として、七七年からの第四次五年計画で元利償還額が資本導入の4.5を占め、「借金経済」のために借金をする」という「国民経済全体を日・米帝の債務奴隷に転化し、又国民総生産の輸入への依存度が六五年の二五・六%から、七六年の七七・一%として大いに宣伝され、漢江の奇蹟

韓国新植民地経済の危機の急速な煮つまり

七〇年代以降、日帝の大規模な資本投下の下で、「韓国的高度経済成長」が後進国発展のモデルと目されて大いに宣伝され、漢江の奇蹟

リムパック(環太平洋軍事演習)とは、かつて米帝がインドシナ侵略反革命戦争の泥沼に入りこんでいた時、前線に動いている米軍の肩替りに、カナダ、オーストラリアなどが、残存米軍と共に太平洋で演習を行ったことが始まりであった。つまり第三世界の民族解放闘争に対して侵略反革命戦争を遂行している米帝を太平洋で支えるものである。

このようなリムパックの第三世界民族解放闘争に対する反革命的な性格は、現在も引き続き一貫している。と同時に、新たな反革命的な性格がそれに付け加わり、急速に台頭してきている。それは、攻勢的に世界的規模で侵略を行なっているソ社帝に對抗した帝国主義戦争の準備である。

ソ社帝は、米帝との戦争を決意しており、決意しているからこそ米帝の恫喝にも一歩も引かず、着々と侵略の歩みを進め、とりわけ

国内評論

帝国主義戦争の準備

「リムパックの本質を暴く」

「リムパックの本質を暴く」と宣言しているために派兵する」と宣言している。なんのことはない、古株の強盗が、これまで自分が盗んできた宝物を新しい強盗に奪われそうになり、あわてて善人面をしているのである。

日本帝国主義は、こうした対ソ戦争準備を推し進める米帝を後盾

韓国労働者階級の闘いと民族民主戦線の広がり

新設と、人民収奪を徹底させてい

増化している。半失業者を含めて失業人口は二八〇万人以上と言われ、それに前述の農村の季節的失業者がつけ加わっている。

このような韓国新植民地経済の構造的矛盾は、七七年以降、日本資本主義の円高・構造的な不況「減量減産・減収増益」のあり方を集中的に受けて一気に噴出し、輸出の停滞、円高による返還債務の急膨張、国際収支大赤字、とど

日帝は現在、国内での産業構造の転換(構造的な不況産業の設備廃棄)・先端的技術産業の育成(資源・エネルギー消費をよりすくなく等の素材製品輸入等々と相まって、それを補完するものとして南半部経済を「層再編」し組み込みこれとASEAN・オセアニア・中国市場化)を結びつけて新たな国際分業(環太平洋経済圏を形成せんとしている。そのために「朴政権の再編」を後押ししつつ、経済行政官僚・買弁資本との間に包括的の緊密な支配・従属関係をつくり出さんとし、これを米日韓軍事一体化と結びつけている。その意味で、今回の政変は、日帝の方向とも合致し、結びついたのである。

だが、このような社会経済構造の矛盾の激化は、南半部人民の闘いを激化し、労働者階級をその先頭へ

の抑圧から自らを解放する唯一の道である。

【注】リムパックとは一九七一年以来六回ハワイ周辺を中心に行なわれる環太平洋(RIMPAC)合同軍事演習で、今回は二月下旬から三月にかけて、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、日本が参加し、米軍を中心に行なわれる予定だが、詳細は未だ公表されていない。

「維新体制」と民主化闘争の「中期決算」から「最終決戦」へ向かう南半部人民の闘いは、同時に、その中で南半部労働者階級が民主革命と民族統一のための指導階級へと自らを組織し、高め上げ、その進出を闘い取っていくものとなるに違いない。御用組合の動揺が始まっていることにも、南半部労働者階級がすでに作り出している力の度合が反映されている。このような始まりは、近い将来、巨大な奔流へと昇りていくであろう。

他方、朝鮮民主主義人民共和国は、七三年石油ショックに際し、国際価格に連動するソ連原油に大きく依存していたことを要因とする対外債務面での困難を総括し、経済的自立・自力更生を重視した社会主義建設を強め、思想革命を要とする技術・文化の三大革命一線を画し、リムパックが、戦争と革命の時代において、対ソ戦争準備に向けていると同時に、引き続き、第三世界人民の民族解放闘争にも向けられていることを暴露し、帝国主義戦争を内乱に転化する戦術を実行できる革命党の建設を共に担っていくように、集会に結果した、職場から反戦・反基地・反自衛隊の闘いを推し進めている全造船船員の労働者をはじめ、横須賀地区を中心とした闘う仲間を訴えた。

自主的平和統一と反覇権・反支配主義

この上に立って、共和国は七九年年頭に、祖國統一戦線が南北会談・南北対話のための四項目提案を行ない、七二年七・四共同声明の三原則に踏まえた実際の統一政策「全民族勢力団結のための政治協定」を展開した。そして他方、米帝の「三者会談」提案に対して、それが戦争状態の終結・米軍撤退・米朝平和協定締結の問題と統一問題(反外勢・民族大団結)の自主的平和統一の問題を意図的に混同させ、三八度線の国境化をなさんとする策動であることを暴露し、米軍撤退要求を堅持し、南半部の愛国民主勢力との交流を呼びかけ、「維新憲法」こそ民族的団結を阻害する原因たることを、間接的に浮き彫りにしたのである。こうした共和国の統一政策は、南半部の民主化闘争を促進し、「反共・反動・分裂」に対する「民族・民主・統一」の潮流を強めると同時に、民主化闘争の発展によって一層現実的な力となっていくであろう。今年頭の再提案は、米帝及び崔政権の矛盾をついて、南半部人民の中に深く作用していくに違いない。

こうして朝鮮自主的平和統一の闘いは、北半部の社会主義的力量と南半部の愛国的民主的力量・両者の連携をめざす胎動と、第三世界の広汎な反帝反殖反覇権闘争と

リムパック粉砕!

横須賀現地闘争闘われる

一月五日、「リムパック」参加に反対する行動委員会に結果する仲間たちは、横須賀の海上と陸上において抗議行動を行なった。抗議行動は、反戦放送を開始する。「自衛官は、海外派兵訓練に行くな!」「だだに、海へ飛び込め!」「日帝の侵略反革命戦争と人民弾圧の道具!自衛隊に、激しい

糾弾が浴びせられる。

「第三世界の人々と連帯し、労働者、市民の闘いによって、必ず自衛隊を解体するぞ!」陸上では、宣伝カーを先頭に、闘う仲間たちは自衛隊の横須賀地方総監部に対して抗議行動を展開し、自衛官に「上官の命令は拒否せよ!」と呼びかける。

リムパックを、たんなる海外派

「革命の旗」拡大運動を、日本共産主義運動の歴史的転換一歩と再編に分け入り、マルクス・レーニン主義のプロレタリア闘争に向け、わが(革命の旗)と共に、共同の事業を闘い抜こうではありませんか!

【年間定期購読】

開封：二五〇〇円
密封：三〇〇〇円
振替口座：東京七八六九四七
赤流社(北沢宮)
同志、読者からの投稿歓迎!

